

仙丈岳地蔵尾根

後藤 隆徳

●仙丈岳地蔵尾根〜仙丈岳〜北沢峠〜甲斐駒ヶ岳〜黒戸尾根

▽79年12月30日〜80年1月1日
▽C.L後藤隆徳(32) 毛利哲也(46)

「とりくみ」

- 1、79年総会で冬山合宿を仙丈岳周辺で行うことを決定した。
- 2、10月杉山 達、小川広太郎計画書作成した。
- 3、11月2日〜3日に後藤、毛利地蔵尾根の偵察と荷上げを行う。
- 4、12月9日〜10日に後藤、毛利杉山、榊原、土佐は富士山吉田大沢で雪上訓練を行った。
- 5、12月30日杉澤、杉澤好子は車で後藤、毛利のサポートを行った。

12月30日(晴)

へタイム▽下土狩8:00〜甲府10:00〜一の瀬13:00〜林道終点14:00(泊)

毛利と納米里の森永牛乳の前で8時に待たされた。回送役の杉澤も2人でやってきた。毛利は開口一番コツヘルを工場に忘れてきた

少し暖かいのが気になった。

12月31日(曇のち風雪)

へタイム▽起床3:00〜出発6:00〜デポ地点11:00〜仙丈岳15:00〜北沢峠17:00(泊)

昨夜は暖かく良く休めた。ただ、ちょっと頭が重かったのはオールドが空になったせいらしい。朝食を済ませ出発する。雪は踝位だった。気象庁のロポット測量所を過ぎた頃より不気味な雲が空全体に速い速度で流れ始めた。

松峰の途中にテントが1張あったので声を掛ける。単独の男だった。彼は昨日一ノ瀬から登ってきたと言った。僕達が入山した時、降りてきたタクシーがそのようだ。松峰を巻きコルに着くと、そこには意外にも松峰小屋が見えた。意外というのは秋の偵察の時どうしても見つからなかったからだ。林道終点から2時間なら昨日ここまで来たかと思った。

9時になり北沢峠隊と交信を試みるが三島芳山のは入感しなかった。荷上げ品の場所に着いたのは11時だった。ここは2400m。計画ではここで幕営になっている。荷上げ品を出しながら今後のことを相談する。天気は最悪で雪も

降ってきた。

私はここで幕営したかったが、毛利はいつになく積極的で、「今日中に北沢峠に行き、皆と合流したい」と言う。しかし、ここからは登り3時間、下り2時間の5時間は掛るだろう。天気が上り坂なら良いが、下り坂では考えてしまふ。だが、私は毛利に反対はせず「とにかく森林限界まで行って様子を見てみましょう」と告げた。岳樺の中を深いラッセルで進むと2600m付近の森林限界に達した。これから先は岩と氷の世界である。もう一度毛利に「行きますか」と問いかける。私も止めようと決断が出来なかった。こういう中途半端な行動は危険だった。結局迷ったが行く事をきめた。もう引き返す事は出来ない。絶対に北沢峠まで行くのだ。

時計は13時を指していた。時間的にはギリギリであった。あと30分も遅ければここに留まったであろう。岩稜に出ると猛烈な風が吹きまくってくる。時々体が浮き風を持っていかれそうになる。1時間程登った。顔にビシビシ当たる風雪が痛かった。毛利がやや遅れ気味になり私は時々立ち止まって待つ。時計は14時を回りあたりは

ゴミもあり味気ない。早々と黒戸尾根を下り、その日の内に三島に帰った。(文中敬称略)

(81年8月 日発行機関誌「くろゆり」第7号に収録)

解説

南アの冬山給仕上げとして取組まれたが若手の退会、杉澤のケガ(ギックリ腰)などで最小人数パーティーとなった。しかし、3km級の山2峰を2人で縦走したのは評価できる内容であった。

第8期冬山合宿

2889m

鹿島山荘

後藤 隆徳

●鹿島山荘(爺ヶ岳東尾根)爺ヶ岳(鹿島槍ヶ岳)鹿島山荘

▽80年12月29日〜81年1月1日

▽C.L後藤隆徳(33) S.L竹端節次(42) 食料毛利哲也(47) 食料杉澤康秀(31) 氣象土屋友茂(30) 会計霧木廣幸(31) 装備村松正広(20) 装備土佐昇(33) 医療小沢恵子(23)

「とりくみ」
南アルプスの課題は昨年で全て終了しいよいよ本年より待望の北アルプス後立山連峰の3ヶ年計画、すなわち鹿島槍ヶ岳、白馬岳、五竜岳が始まった。

1、80年3月総会にて決定。
2、5月2日〜5日に後藤、毛利、竹端、土佐、村松、伊藤(鈴木)真理子は爺ヶ岳東尾根(鹿島槍を

南アの冬山給仕上げとして取組まれたが若手の退会、杉澤のケガ(ギックリ腰)などで最小人数パーティーとなった。しかし、3km級の山2峰を2人で縦走したのは評価できる内容であった。

偵察した。

3、10月11日〜12日に後藤、竹端、毛利、杉澤康、露木、今井芳、村松は東尾根2km付近に荷上げした。

4、11月29日〜30日に富士山吉田大沢で後藤、村松、露木、土佐、小沢は雪上訓練を行った。
5、12月4日〜5日に富士山5合目付近で毛利、杉山達、土佐、土屋は雪上訓練を行った。

12月29日(晴)

へタイム(三島8:05〜爺ヶ岳スキー場17:45)出発18:30〜鹿島山荘19:10(泊)

昨年毛利と仙丈岳東尾根を登った時、いつでもそうだが翌年の冬山についていろいろと話合った。

話題は昨年あたりからいわれている北アルプスでの冬山合宿だった。芳山の冬山も弘法小屋尾根(白峰三山、鋸岳)甲斐駒、聖岳東尾根(茶臼岳、仙丈岳東尾根)甲斐駒と確実に力をつけてきている。

会の平均年齢、機運等考えると来年は北アで冬山合宿をやる最良の機会と思えた。私と毛利の意見は合致し、来年は北アで冬山を實施しようと思いついた。

年末の山は69年来の大雪で荒れに荒れすでに遭難者が続出していた。昨夜の天気図も大陸からマイナス45度という寒気団が南下してきた。2〜3日すれば北アはまた大雪になるだろう。家族は心配して「よせばいいのに」といった。山に不安材料が多かった。だが私はその割には不思議と心に動揺もなく、気持ちは充実していた。北アの冬山という新鮮さもあったが、何よりも8名の大勢の仲間と合宿が出来るのがそうさせていた。

三島駅発は7時半だったが竹端、土佐が遅れ8時5分になる。使用車は毛利のブルーバードと私が沼津の鈴木氏に借りた人形劇団の「ぶくぶく号」だった。今年はこの車を良く借りた。見送りは今井芳、杉澤好らが来てくれた。車が池田町を過ぎ大町に入ると雪は一段と多くなり約1m。近くのガソリンスタンドの屋根が雪の重みで落ち、久し振りの大雪を物語っていた。それに道路の除雪が充分でない所以对向車が来ると交換に苦労し時間も掛かった。中花見を過ぎ、鹿島川を渡り、爺ヶ岳スキー場に来るともう回りは暗くなった。しかも、この辺りの雪は全く締ってなく車はしばしば雪の中に入ってしまった。そのたびに私達は車の後押しをしなければならなかった。

スキー場の雪は約2mでその先は除雪してなかった。暗い中、荷物を整理し分担しランプをつけて出発。鹿島山荘には小1時間で着く。明日のルートを探察すると、深い雪のなかハッキリとトレースはついていて山荘の人の話だとすでに数パーティー入山しているとのことだった。山荘に戻り全員で囲炉裏を囲んで軽い食事をとり酒を飲む。竹端がその昔鹿島槍で遭難しこまで走って連絡に来たとか、山荘のバアさんの話を聞いた。最後に明日の打合せをして休む。フトンが冷たくて快適でなかった。